花崎北小学校だより

学校教育目標「かしこく　やさしく　たくましく」

令和６年度
１０月号
児童数２１７名

「読書」

校長　藤井　真仁

やっと涼しくなってきました。

朝晩は半袖では寒いくらいですが、気象予報士曰く、このくらいの気温が「大体平年並み」とのこと。

さて、読書の秋がやってきましたが、９月１８日の新聞に「本『読まない』初の６割超　５年前から１５ポイント増で最多」という記事がありました。２０２３年度の国語世論調査によると、「１か月に何冊くらい本を読んでいるか」に対する回答で一番多かったのが「読まない」の６２．２%だったそうです。また、以前に比べて読書量が「減っている」と答えた人の４３．６%が、その理由を「情報機器で時間が取られる」としており、年齢が低いほどその傾向が高かったようです。おそらく、インターネットやＳＮＳ等で情報を読む人が多くなっているので、読書離れは進んでいても、活字離れはそれほど進んでいないのかもしれません。

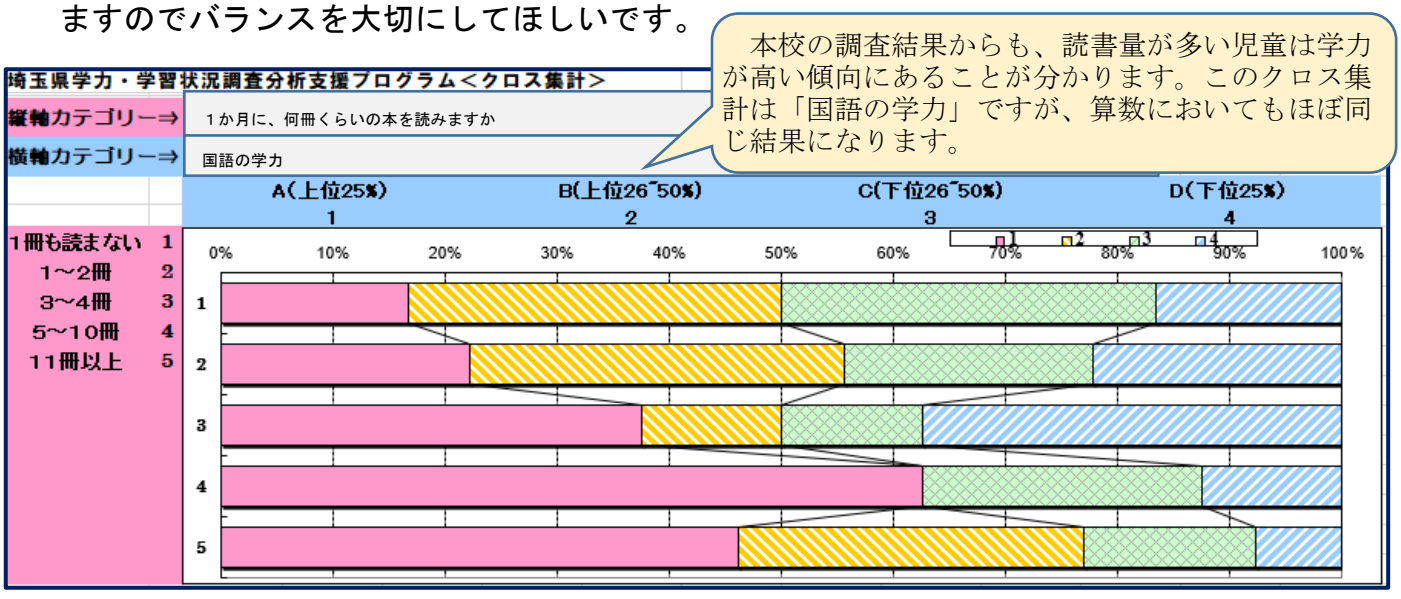
しかし、読書離れが進むことは、とても心配です。

全国学力・学習状況調査から「学力が高い児童の特徴は、家庭で読書や読み聞かせの習慣がある」と文科省も指摘しているとおり、学力と読書に相関関係があることは、よく知られています。（海外では、「国語の学力と読書量には因果関係がある」との研究結果があるようです。）

本校においては、埼玉県学力・学習状況調査から「読書習慣の定着に課題」があることや、２２時以降にゲームをしたりテレビ・インターネットを見たりしている割合が高いことなどが分かりました。

そこで、課題解決の取組の１つとして、読書活動の取組を充実してまいります。

インターネットからは、自分が求めている情報が簡単に手に入ります。一方で、読書からは、予想していなかった展開にワクワク・ドキドキしたり、新たな知識を発見したりすることがたくさんあります。インターネットやＳＮＳ、読書には、それぞれのよさがありますのでバランスを大切にしてほしいです。



本校の調査結果からも、読書量が多い児童は学力が高い傾向にあることが分かります。このクロス集計は「国語の学力」ですが、算数においてもほぼ同じ結果になります。

今、「なぜ働いていると 本が読めなくなるのか」という本を読んでいます。数年前は、月に５冊程度は読んでいましたが、最近は、月に１冊程度しか読めていません。疲れていると、ついスマホばかり見てしまいます。

この秋、読書と働き方について、ゆっくり考えてみようと思っています。